

昭和49年度
(1974)

厳冬期涸沢岳西尾根・前穂高岳北尾根から奥穂高岳・北穂高岳

昭和49(1974)年12月24日～1月3日

参加メンバー

CL 服部幸雄 SL 中田 茂
 食糧 牧瀬敏裕 師田信人 横山嗣巳
 装備 吉田秀樹 二俣勇司 左山幹雄
 梱包 福島 渉 古橋孝夫 藤元治朗
 記録 古橋孝夫 井上雅子
 気象 豊田信行
 医療 豊田信行 村田卓穂
 会計・渉外 須貝与志明 藤元治朗
 総合監修 渡部光則 中田 茂

隊編成

涸沢岳西尾根隊 (本隊)

CL 服部幸雄 SL 中田 茂 師田信人 二俣勇司 左山幹雄 福島 渉 古橋孝夫 藤元治朗
 豊田信行 村田卓穂 横山嗣巳 井上雅子

北尾根隊

L 渡部光則 吉田秀樹 牧瀬敏裕 須貝与志明

行動記録

12月24日 (本隊) 松本～高山～新穂高

12月25日 (本隊) 雪 新穂高～白出沢出合

デポ隊はかなりの急登に苦しめられる。1700mにデポ。

(北尾根隊) 松本～沢渡～木村小屋～新村橋

徳沢園では天場代を取られるとのことで新村橋を渡った右岸に泊。

12月26日 (本隊) 雪のち晴 白出沢出合～2400m 地点、C1

本日はC1まで全装備を運ぶことにする。西尾根の苦しい登りに、ザックが肩に喰い込む。トレー

スはあるものの本当につらい。

(北尾根隊) TS～慶応尾根取り付き～八峰手前のピーク下のコル

長野パーティーのトレース全く消えて無く、フカフカの胸までのラッセルに消耗。途中カモシカが全く逃げないので記念写真を一緒に写す。

12月27日 (本隊) 晴 フィックス隊 服部 福島 古橋

樹林帯を抜け、岩稜になる。フィックスの残骸などがあり、少々ヤバイ。そこを登りきると、ゆるい登りのナイフリッジが続く。雪庇は小さい。蒲田富士を過ぎて、またルンゼの急登が続く。ル

ンゼはサンクラストしており、さほどの不安は無い。帰りにルンゼ、下部、それに岩稜にフィックスを張り帰天。

(北尾根隊) TS～八峰～五峰・六峰の科尔～三峰・四峰の科尔

七峰 20m アップサイレンで下降。六峰フィックス 70m。四峰の登りは五・六の科尔を今日出発した長野のトレースがあり、フィックスを張れば(60、80、40m)なんら問題は無い。四峰のピークで長野パーティーの野口氏の出迎えを受けて三・四の科尔へ。夕食時に長野パーティーのL西川氏が明日も残りのフィックスを張ったあと、合同で前穂高岳に行くことを申し入れてきた。同じ山岳部の仲間どおし、それに今日長野のフィックスを使わせて頂くのだし、我々2年目以上のメンバー構成を考えて何ら問題なく了解。

雪の奥又白が眺められる今日一日、一本取るとどうしても前穂高岳東壁を目で追ってしまう。北壁は雪で一面に覆われていた。長野が当初計画した右岩稜より難しそうに思えた。夜半より風強く、起きて4人でひたすら背中を押さえて耐えるが、明け方近くとうとう新品のエスパーステントのフレームが折れてしまった。

12月28日(本隊)曇 C1～白出の科尔C2～デポ地点～C2

ルンゼより上部はさしたる問題も無いが、風が強く、参る。

涸沢岳を過ぎ何なくC2白出の科尔へ。科尔までは急な下りで少々気をつかう。

(北尾根隊) TS～前穂高岳頂上

三・四の科尔から三峰ピークまで全てフィックスを張る。長野パーティー 40m・40m・40m、残り部分を渡部、吉田2名で先行して40m・30mと工作した三峰ピークへ。荷を小さく分けて三峰ピークへ上げる。三峰ピーク集結完了12:00、前穂高岳頂上直下、明神側へ大きな雪洞を掘って、全員入る。(長野、伊那松本12名)三・四の科尔で荷物の詰め替え中、キスリング一個を強風でC沢に落とす。はるか本谷まで流れてしまった。個

人装備を寄せ集めて何とかなった。

12月29日(本隊)晴、吹雪 フィックス隊 福島 豊田

昨日のフィックスの補充などを工作。残りは、沈殿。11:40頃 吹雪の中を北尾根隊が現れる。(北尾根隊) TS～奥穂高岳頂上～白出の科尔

視界がなんとかきくので、我々4名で先行する。途中一部フィックスしたところがあったが、ほとんど吊り尾根稜線上を進む。雪底はあまり大きくない。

奥穂高岳頂上につく頃は地吹雪とガスで視界がきかず、ピークはそのまま通過。白出の科尔へは慎重に下降。本隊のテントを見つけて合流。喜び合う。ゴク로우サン!

12月30日 曇り吹雪 北穂高岳アタック隊 福島 中田 豊田 古橋

涸沢岳の下りは、雪質が悪く手こずる。スタカット、コンテの連続、それに吹雪となり苦しめられる。また人が多く順番待ち、イヤなものだ。時間の割には進まず引き返す。

奥穂高岳アタック隊 服部 吉田 牧瀬 須貝 一年生全員

奥穂高岳の頂上で長野の連中と会う。

12月31日 晴、風強し 北穂高岳アタック隊 福島 中田 豊田 古橋

昨日と違って雪も安定しており、ピッチがはかどる。涸沢岳の下りでスタカット、コンテをしたくらいで、あとは滝谷側を巻いたりするときには少々ヒヤッとさせられたくらいである。しかし、とにかく人が多いのには参る。北穂ピーク 10:30

奥穂高岳アタック隊 中田 吉田

記録詳細判らず

残りのメンバーは沈殿

1月1日 曇のち雪

早朝、牧瀬が苦しみだす。かなりの苦痛を訴える。嘔吐。時間がたっても良くなる様子ではない。本人は痛みを堪えてか体を左右に動かし、転げまわるばかりである。検討の結果、関西山岳会から

ショイコを借りる。

中田 服部 吉田 須貝で下ろすことにする。
その日はC1でテントを張る。

牧瀬の病状はさほど良くなりず。残りのメンバーは、C2で沈殿

1月2日 晴のち曇 C2～新穂高

風はあるが一気に下山する。撤収してエッセン、ガソリンを冬期小屋にデポする。西尾根のフィッ

クス、エッセンデポを回収していく。蒲田富士の下のフィックスが20mほど切断され、何者かに持ち去られているのを発見。頭にくる。新穂高で先発隊と合流した。牧瀬は服部とともに、神岡の病院に行ったとのこと。夜、服部が戻ってきた。牧瀬の病名は腎臓結石とのことであった。(後ではっきりしたが、腎盂炎と尿道結石とのこと)

1月3日 新穂高～松本



●コバイケイソウ